

青春スクロール

母校群像記

美しく愛される漫画・イラスト 息長く

川越女子高(以下、川女)は、戦前の川越高等女学校時代から今まで、人気の漫画家やイラストレーターも多く輩出している。

「正門をくぐるとき桜吹雪が舞い、目の前が桜色に染まったんです」。漫画家花村えい子(1946年卒)は43年、入学式の日、光景を今も忘れない。

川越の商家に生まれた。軍国色が強まる前、少女雑誌に中原淳一が描いた少女の絵に衝撃を受け、「美しいもの」を描き始めた。

2年になると太平洋戦争が激化し、農家を手伝うなどの勤労奉仕が増えた。雨天体操場(体育館)に並べたミシンで軍服を縫い、校



「少女漫画」のジャンルを築いた花村

県立川越女子高校③



庭に防空壕を掘った。

戦後、女子美術専門学校(現・女子美術大)に進学。その後、暮らした大阪で漫画家の貸本屋店主に自分の絵を見せた際「描きなはれ!」と背中を押され、道が開けた。週刊マーガレットに連載しドラマ化もされた「霧のなかの少女」など描き続けた作品は500作を超え、今年で画業60年になる。

漫画家服部あゆみ(75年卒)は「たまり場になる部屋が欲しくて」と、当時のマンガ研究会を、部活動のマンガ研究部(漫研)に昇格させ初代部長に就いた。コバルト文庫「星子シリーズ」の挿絵

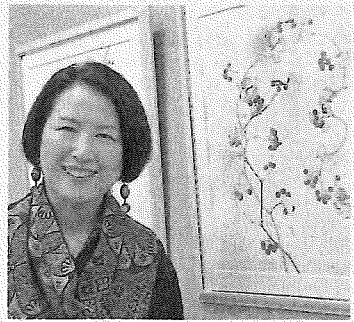


「へのまほほは」を手にする吉川

は約30巻、「風水斎シリーズ」は18巻を数える。

たまり場にいた一人が吉川うた(61、76年卒)。後に服部のアシスタントも務めたが、「漫研では漫画は描かずフォークソングやロックを歌って過ごした」。卒業後に専門学校でアニメーションを学び、アニメ会社で「ドラえもん」「怪物くん」の原画を制作した。漫画家デビュー後は、オカルトロマンス「すくくと狐」や松尾芭蕉が題材の「鳥啼き魚の目は泪

おおくのほそみち秘録」などが人気になった。「級友以上に通じるものがある」と、漫研の仲間と年数回、川越や池袋で集まる。



あしなが育英会のイラストを手がける天野

液体せっけん「キレイキレイ」のキャラクターが知られるイラストレーター上田三根子(69、67年卒)は「川女では劣等生だった」と言う。「スツと入学できたが、まわりは頭の良い子ばかり。勉強もせずに武道館にピートルズを見に行った」。プレイステーションのゲームソフト「ぼくのなつやすみ」などポップなデザインを生み出している。

漫研OGのイラストレーター天野聡美(58、79年卒)は「あしなが育英会」副会長。4歳で父を交通事故で亡くし、川女にはあしなが育英会の奨学金で進学した。「暗かった中学までとは一転、川女で光が差したように楽しく、はじけた」。2年で生徒会役員になり、川女近くの喫茶店を「第二会議室」と呼んで入り浸った。ドキドキしながらアイリッシュコーヒ

ーで大人の気分を味わった。女子美大在学中、育英会のイメージイラスト「あしながおじさん」を任せられ、シルクハットの紳士を誕生させた。勤めや子育ての間も途切れることなく描き続け、海外の遺児支援にも活動を広げている。 敬称略

中学入試、インフル対応で振替

で登壇したサピックスの広野雅明・教育事業本部長は「千葉の受験生で2月1日に都内の入試を受けなかつた子が多かった印象があ

ベルマークだより 2月分
◇預金を積分立て
さいたま市 西区 植水小、馬宮東小▽北区 植竹小▽大宮区 琴平小、大宮小、大宮南小、上小